

音楽づくりと鑑賞を相互に関連させた学習指導の在り方
— サンバのリズムアンサンブルづくりを活かして —

1 設定理由

本学級の児童は、音楽科の歌唱や器楽表現の学習に大変意欲的であり、得意だと感じている児童も多く、発想豊かに即興で音楽づくりを楽しむことができる児童も多い。しかし、音楽づくりでは思いや意図を、鑑賞では感じたことに対して、音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みと関連させて考えたり、表現したりすることは十分でない。そこで、音楽づくりと鑑賞を、音楽を形づくっている要素の視点で捉え、相互に関連させた学習を行うことで、児童が学習を深め、音楽活動をより楽しいと感ずることができるのではないかと考えた。また、学習の題材として、特徴的なリズムや音楽を形づくっている要素を児童が意識しやすいと思われるサンバを取り上げ構成し、単元を通して意欲を継続させながら楽しく音楽づくりや鑑賞にとりくめるのではないかと考え本主題を設定した。

2 研究仮説

仮説1 音楽づくりの題材として「サンバ・パトゥカーダ」を取り入れ、協働的な学びの場を設定することで、意欲的に学習にとりくみ、鑑賞学習を活かしながら思いや意図をもった音楽づくりをすることができるであろう。

仮説2 音楽を形づくっている要素を手がかりにして楽曲を聴いたり、音楽づくりと鑑賞を相互に関連させたりすることで、より楽曲を味わうことができるであろう。

3 研究内容

- 題材設定の工夫 【仮説1-①】
- 協働的な学びの場の設定 【仮説1-②】
- 音楽づくりと鑑賞の関連 【仮説1-③】
- 音楽を形づくっている要素を手がかりにして楽曲を聴く。【仮説2-①】
- 音楽づくりと関連させて楽曲を味わう。【仮説2-②】

4 結論

- 鑑賞において、児童の気づきと音楽を形づくっている要素とを結びつけていくことで、児童が楽曲の面白さやよさについて根拠をもって考えることができた。
- 音楽づくりと鑑賞を相互に関連させた学習を行うことで、鑑賞から学んだことを活かして音楽づくりを行うことができ、音楽づくりを活かしてより鑑賞曲を味わうことができ、相乗効果として児童がより音楽活動の楽しさを味わうことができた。

研究主題

音楽づくりと鑑賞を相互に関連させた学習指導の在り方 ー サンバのリズムアンサンブルづくりを活かして ー

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説音楽編において、表現活動のひとつである音楽づくりは、「児童が自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音や音楽をつくることである」と示され、「児童が明確な考えや願い、意図をもつようにし、それを実現するために必要な音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを選んだり組み合わせたりして、まとまりのある音楽になるようにすることが重要である」と述べられている。また、基礎的な鑑賞の能力とは「音楽を聴いて、音楽を形づくっている要素のかかわり合いや、それによって醸し出される曲想を感じ取り、味わう能力」とされている。高学年では、「曲想とその変化などの特徴を感じ取って想像豊かに聴いたり、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴いたりしながら、聴く喜びを深めるようにすることが重要」と述べられている。

そこで本実践の題材として、特徴的なリズムや音楽を形づくっている要素を児童が意識しやすいと思われるサンバを取り上げ構成した。児童は器楽表現の中でも特に打楽器への関心が高いことが、昨年度の学習の様子からうかがうことができた。また、明るく元気でどの学習にも意欲的に参加する実態が、サンバの楽しい雰囲気に適していると考え、サンバの中でも打楽器で編成されている「サンバ・バトゥカーダ」を題材としてあつかった。いくつかのリズムパターンと手法を組み合わせることで、独特の躍動感を味わうことができ、友だちとの一体感を感じることができるよさがある。サンバを題材とすることで、単元を通して意欲を継続させながら楽しく音楽づくりや鑑賞にとりくめるのではないかと考えた。

本学級の児童は、音楽科の歌唱や器楽表現の学習に大変意欲的であり、得意だと感じている児童も多い。また、発想豊かに即興で音楽づくりを楽しむことができる児童も多い。しかし、音楽づくりでは思いや意図を、鑑賞では感じたことに対して、音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みと関連させて考えたり、表現したりすることは十分でない。そこで、音楽づくりと鑑賞を、音楽を形づくっている要素の視点で捉え、相互に関連させた学習を行うことで、児童が学習を深め、音楽活動をより楽しいと感じ、学ぶ喜びを味わうことができるのではないかと考え本主題を設定した。

2 研究目標と研究仮説

(1) 研究目標

音楽づくりと鑑賞を相互に関連させた学習を通して、音楽を形づくっている要素を理解し、楽曲の特徴を捉えることで、音楽を学ぶ喜びを味わうことのできる学習指導の在り方について、実践を通して明らかにする。

(2) 研究仮説

仮説1 音楽づくりの題材としてサンバ・バトゥカーダを取り入れ、協働的な学びの場を設定することで、意欲的に学習にとりくみ、鑑賞を活かしながら思いや意図をもった音楽づくりをすることができるであろう。

〈仮説1におけるめざす児童像〉

サンバ・バトゥカーダの題材をもとに、鑑賞で学習したことを活かしながら、友だちと協力して、思いや意図をもったリズムアンサンブルづくりを意欲的に行う児童。

【仮説1-①】題材設定の工夫

教材曲「朝だ！カリリオ！」は、ブラジルにおいて打楽器で編成されているサンバ・バトゥカーダの楽曲である。サンバ・バトゥカーダは旋律がないため、打楽器の音色やリズム、速度などの音楽を特徴付けている要素や、反復、問いと答えなどの音楽の仕組みに着目しやすく、感じ取ったことを表現しやすいと考えた。また、サンバの3種類の簡単なリズムパターンを組み合わせることでリズムアンサンブルづくりをすることで、想像力を働かせて音楽づくりをすることが可能になり、音楽をつくる喜びや楽しさを感じながら、よりサンバを身近に感じることができるのではないかと考えた。

サンバ・バトゥカーダの中には、スタートとストップ、コール&レスポンス、かべぬり、ソロ、ブレイクなど、基本のリズムパターンの前後に付け加えるいくつかの手法がある。（資料参照）それらを、基本のリズムパターンをよりサンバラしくする「サンバ・スパイス」として児童に提示する。「サンバ・スパイス」と基本のリズムパターンを組み合わせることでバトゥカーダ進行表を作成し、打楽器のリズムアンサンブルを行う。その活動の過程で、鑑賞における児童の気づきを、音色、リズム、音の重なり、反復、問いと答えなどの音楽を形づくっている要素と関連づけて指導する。

【仮説1-②】協働的な学びの場の設定

歌唱や器楽などの技能や表現に自信のない児童も意欲をもって学習に臨むことができるよう、打楽器を使った音楽づくりの場を設定した。グループによる音楽づくりは、自分の発想を生かしながら、友だちと協力することで、まとまりのある作品になっていくと考える。3～4人で音楽をつくっていく過程の中で、お互いの音を聴き、アイディアを出し合いながら音楽表現を工夫し、音楽ができていく喜びを味わわせたい。リズムアンサンブルづくりを工夫する場面では、「こんなバトゥカーダにしたい」という具体的な思いをグループごとにもたせ、意欲化を図りたい。

音楽づくりの活動の際、児童は、構成を考えたアンサンブルを何度も試して演奏するだろう。その際、どのように工夫していくか、グループで考えを共有し、視覚化することが必要だと考えた。そのために、基本のリズムをパート別に色分けしたマグネットをボードに貼って表すワークシートが有効だと考えた。

さらに、グループごとにつくりあげたリズムアンサンブルを聴きあう場面として「サンバ・パーティー」を行う。友だちのグループのリズムアンサンブルを聴くことで、自分たちの作品とは違う音楽表現の面白さに気がつかせ、その根拠を引きだしていきたい。その根拠と音楽を形づくっている要素とを関連づけて整理し、もう一度サンバ・バトゥカーダの鑑賞へとつなげていきたい。

【仮説1－③】音楽づくりと鑑賞の関連

導入としてサンバを含む世界の国々の楽器の演奏を鑑賞する。児童の感想を全体で共有する際、担任とともに音楽を形づくっている要素と結びつけていくことで、鑑賞が音楽づくりへと活かされていくであろう。また、サンバ・バトゥカーダのパレードの写真や実際に使われている楽器を資料で提示することで、児童の「やってみたい」「楽しそう」という意欲を引き出すことができるであろう。

仮説2 音楽を形づくっている要素を手がかりにして楽曲を聴いたり、音楽づくりと鑑賞を相互に関連させたりすることで、より楽曲を味わうことができるであろう。

〈仮説2におけるめざす児童像〉

音楽を形づくっている要素を手がかりにしながら鑑賞したり、音楽づくりと鑑賞を関連させた学習をしたりすることを通して、より鑑賞を楽しみ、楽曲を味わうことができる児童。

【仮説2－①】音楽を形づくっている要素を手がかりにして楽曲を聴く。

本校では音楽を形づくっている要素を「音楽の種」として音楽室に掲示している。鑑賞後の子どもたちからのつぶやきや感想を丁寧に拾い「そのように聴こえたのはなぜだと思う？」といった投げかけをし、児童の気づきを「音楽の種」を手がかりにしながら根拠づけていきたい。音楽を形づくっている要素と鑑賞を結びつけることで、サンバの面白さやよさを感じ、楽曲を味わうことができるであろう。

【仮説2－②】音楽づくりと関連させて楽曲を味わう。

リズムアンサンブルづくりの後にもう一度サンバを鑑賞してみることで、より楽曲の特徴や演奏のよさに気づくのではないだろうか。音楽づくりと鑑賞を相互に関連させることで、改めてじっくりと曲を聴き、音楽を形づくっている要素に気づきながら、より楽しんで鑑賞曲を味わうことができるであろう。

3 研究内容

- (1) 題材名 第5学年 「サンバを楽しもう」
教材 「朝だ！カリリオ！」
「ブラジル」

(2) 題材の目標と評価規準

①題材の目標

- 音楽を形づくっている要素を聴き取り、構造や特徴を理解しながら楽曲を聴くことができる。
- 音楽の仕組みを活かし、試行錯誤をしながら、自分の思いや意図、見通しをもって音楽づくりをする。

②題材の評価規準 ○主な関連

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作	○	○	○	
鑑賞	○			○
題材の評価規準	① 世界の国々の音楽に関心を持ち、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気をつけて、聴く学習に進んでとりくもうとしている。 ② 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、見通しをもって音楽をつくる学習に主体的にとりくもうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。	音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気をつけて聴いている。
具体の評価規準	① 世界の国々の音楽に関心を持ち、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気をつけて聴くことに意欲的である。(A) 世界の国々の音楽に関心を持ち、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気をつけて聴こうとしている。(B) ② 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、見通しをもって主体的に音楽づくりをしている。(A) 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成し、見通しをもって音楽をつくる学習にとりくもうとしている。(B)	鑑賞曲から音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みや自分の考え、願いを生かし、友だちと協働してリズムアンサンブルをつくることができる。(A) 鑑賞曲から音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽の仕組みを生かしながら、リズムアンサンブルをつくることができる。(B)	リズムの反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを生かしながら、見通しをもってリズムアンサンブルづくりをしている。(A) リズムの反復、問いと答えなどの音楽の仕組みをリズムアンサンブルづくりに生かそうとしている。(B)	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気をつけて聴いている。(A) 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取りながら、聴いている。(B)

(3) 指導計画 (9 時間扱い)

次	時	ねらい	○主な学習活動 ☆〔共通事項〕	評価
1 次 鑑賞	1	○サンバを含む世界の国々の楽器の演奏を鑑賞し、様々な楽器の音色に親しんだり、それぞれの楽曲のよさを感じ取ったりする。	○サンバを含む楽器による世界の国々の音楽を鑑賞し、感想を交流する。 【仮説 1-③】 ○サンバ・バトゥカーダ「朝だ！カリリオ！」を鑑賞し、音楽を形づくっている要素と結びつけながら、根拠をもって楽曲のよさや面白さを感じ取り、音楽づくりへの意欲をもつ。【仮説 2-①】 ☆音色 リズム 強弱 音の重なり 反復 問いと答え	ア① エ
2 次 創作	2 3 4	○前時の鑑賞を生かして、サンバのリズムや手法に着目し、リズムをたたいたり、ふさわしい音色の楽器で表現したりする。	○前時の鑑賞を想起し、サンバを構成している 3 種類のリズムパートについて知り、楽器で演奏する。 【仮説 1-①】 ○サンバ・スパイスについて知り、リズムアンサンブルの中に取り入れる。 【仮説 1-①】 ☆音色 リズム	ア② イ ウ
3 次 創作	5 6 7	○グループで話し合い、アンサンブルの仕方をまとめ、思いや意図をもって演奏を組み立てる。	○グループで話し合い、リズムパターンやサンバ・スパイスを組み合わせ、サンバ・バトゥカーダ進行表をつくる。 【仮説 1-②】 ○自分たちの思いが伝わるよう、バトゥカーダ進行表を工夫する。 【仮説 1-②】 ☆音色 リズム 強弱 音の重なり 反復 問いと答え	ア② イ ウ
	8	○「サンバ・パーティー」を開き、互いのグループの工夫に着目し、自分たちのリズムアンサンブルと比べながら発表を聴く。	○自分たちのつくったリズムアンサンブルを発表する。 ○互いのグループの工夫に着目し、自分たちのリズムアンサンブルと比べながら発表を聴く。 ○互いの発表の感想を交流する。 【仮説 1-②】 ☆音色 リズム 強弱 音の重なり 反復 問いと答え	ア② イ ウ
4 次 鑑賞	9	○これまでの鑑賞や音楽づくりの学習を生かしながら、感じ取ったことを表現する。	○サンバの楽曲「朝だ！カリリオ！」「ブラジル」を鑑賞し、最初の鑑賞や音楽づくりの学習を生かしながら、感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とを関連付けて言葉で表現する。 【仮説 2-②】 ☆音色 リズム 強弱 音の重なり 反復 問いと答え	ア① エ

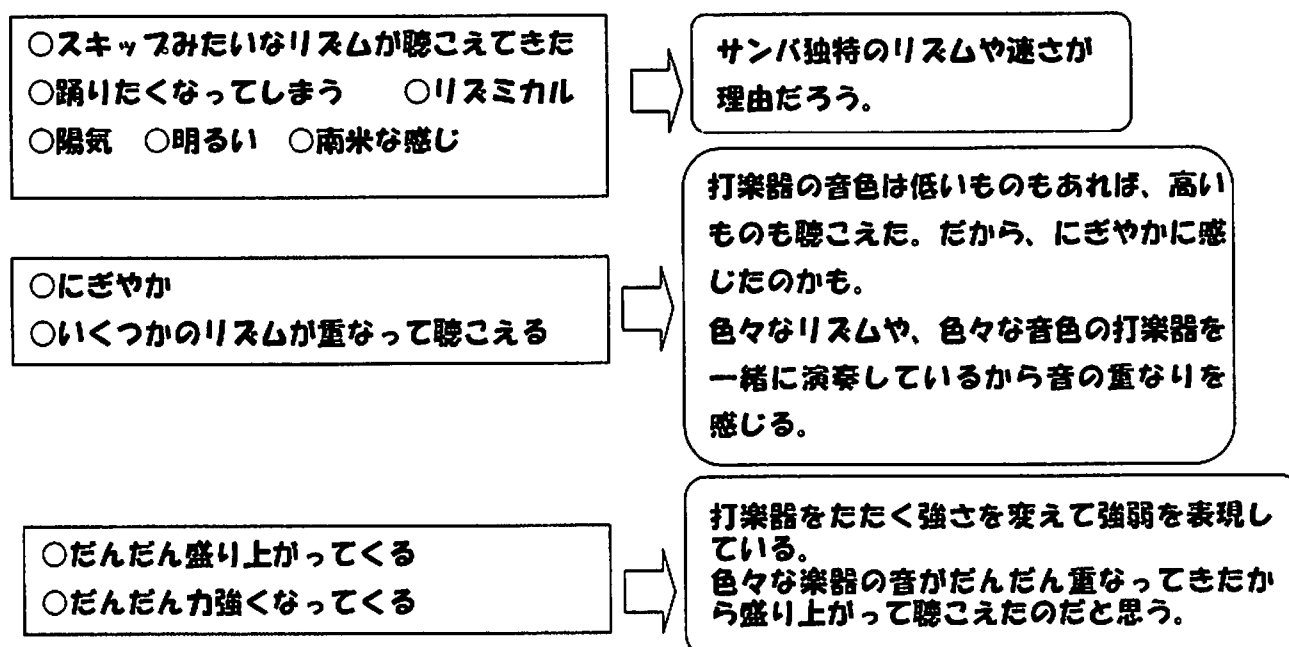
(4) 指導の過程と考察

第1次第1時【仮説1-③】【仮説2-①】

導入としてサンバを含む世界の国々の楽器の演奏を鑑賞した。7カ国の国々の楽器による演奏を鑑賞し、児童の実態に適していると考えたサンバに焦点をあてた。サンバ・パトウカーダによるバレードの写真や、実際に使われている楽器を資料で提示すると、「音楽室にある打楽器でもできるかな?」「サンバってカーニバルの踊りのイメージが強かったけど、打楽器が活躍していることが分かった。」などの声があがり、サンバへの関心がより高まったことがうかがえた。

鑑賞後の子どもたちの感想や気づきを全体で交流し合う中で、「音楽の種」を手がかりにしながら音楽を形づくっている要素と結びつけた。

(サンバを鑑賞した児童の感想と共通事項との関連づけ)

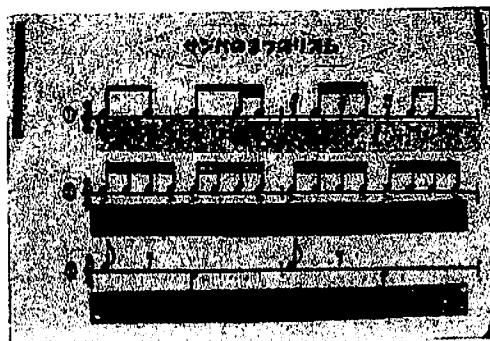


その他、児童の感想にはサンバ特有のかけ声の面白さに気づいているものもあった。また、児童の気づきにはなかった同じリズムの反復、問いと答えなどについても「音楽の種」をもとに指導した。この鑑賞により、サンバの面白さやよさを感じ、楽曲を楽しく聴くことができた。また、鑑賞で感じたことや理解したことを活かして、リズムアンサンブルづくりをしたいという意欲も高めることができた。



第2次第2～4時 【仮説1-①】

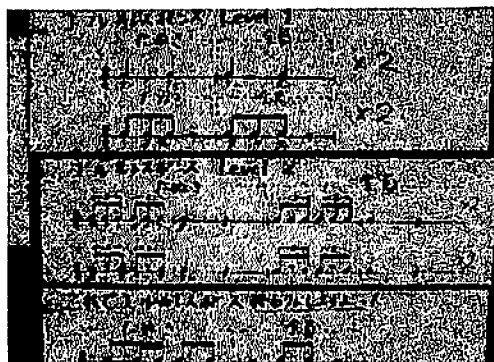
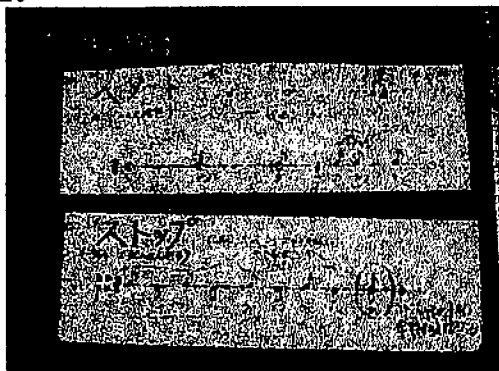
前時の鑑賞にて、多くの児童がサンバ特有のリズムに着目した。それを活かし、第2時では3種類のサンバの基本リズムを提示した。まず、手拍子でのリズムの真似っこ遊びを取り入れ、担任が拍を打ち、それに合わせて手拍子を打った。



児童からは、「たぬきのリズムはとても難しい!」「シマウマのリズムはそんなに速く手拍子では打てない。」という声が聞かれた。そこで、それぞれのリズムの特徴をつかむために、「タンタン たーぬき すたすた にげた」「シマウマ シマウマ・・・」「ウッドーン ウッドーン・・・」といったアクセントの位置を強調した口唱歌を取り入れた。それにより、児童は拍の流れに乗り、口唱歌を口ずさみながら自信をもってリズムを打てるようになった。中には休み時間の移動中に階段を上るときに、足で拍をきざみながら「タンタン たーぬき・・・」と手でリズム打ちをする姿も見られるようになり、サンバのリズムを身近に感じながら楽しくリズムを理解する様子が見え始めた。

楽器選択の場面では、鑑賞の際に「色々な楽器の音色が聴こえた。」という児童の感想を想起させ、パートごとの音色にふさわしい打楽器を選択するようアドバイスをした。各リズムの音色にふさわしい楽器をグループで相談して決定する中で、①のリズムにフライパンや金属のバケツを使ったり、③のリズムにゴミ箱を使ったりと、身近な物を楽器として取り入れ、自分たちのオリジナルのサンバをつくりたいと楽しみながら活動する姿が見られた。

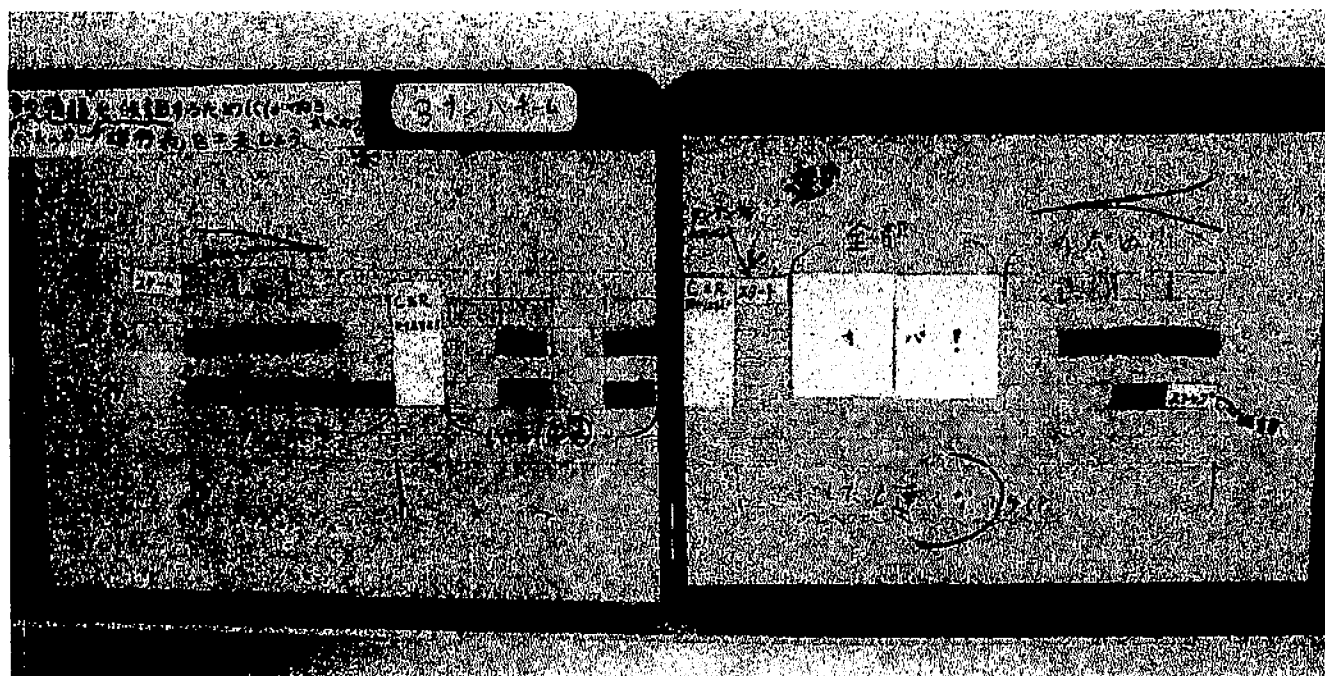
グループでリズム練習を行った後、鑑賞の際に児童からあがった「色々な音がだんだん入ってきた」という感想を取り上げ、サンバ・パトゥカーダの手法である「かべぬり」を紹介した。その他にも、スタートとストップ、かべぬり、かべぬき、コール&レスポンス、ソロブレイクの方法について掲示物を示しながら「サンバ・スパイス」として紹介した。音楽を形づくっている要素の反復、問いと答えなどと照らし合わせながら、全体で確認して特徴をつかませた。児童からは「そういえば、最初に聴いた『朝だ!カリリオ!』にもこの演奏の仕方が入っていたよね。」という声が聞かれた。その後、鑑賞曲のような魅力的な音楽をつくらうとグループで話し合ったり、実際に演奏したりしながら、パトゥカーダ進行表に「サンバ・スパイス」を取り入れ、リズムの組み合わせを考えながら音楽づくりに臨むことができた。



第3次第5～8時【仮説1-②】

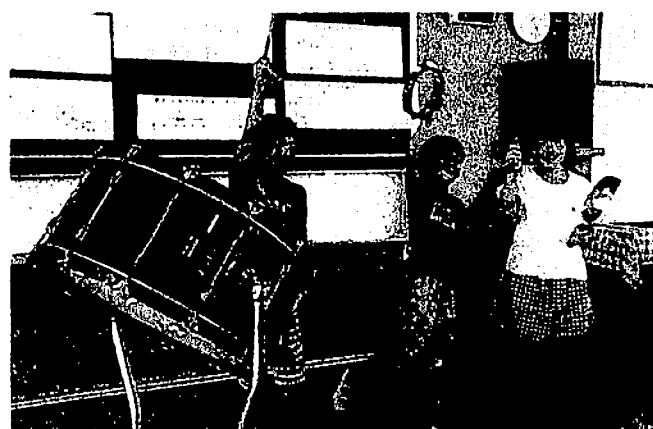
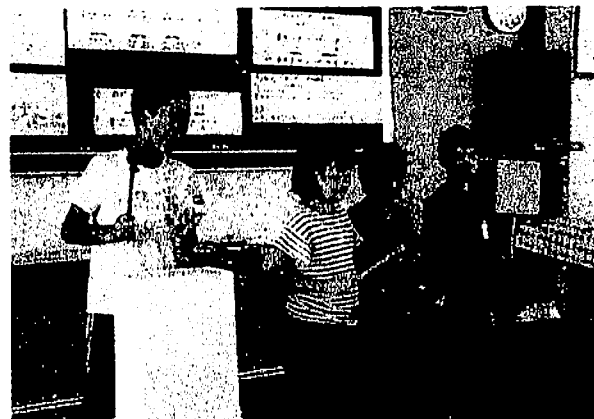
次時では、「(○○○○) なバトゥカードになるように工夫してリズムアンサンブルをつくろう」という課題のもと学習を行った。前次までに出来上がったバトゥカード進行表を見直し、自分たちがより満足するものとなるよう、グループごとに思いや意図をもった音楽づくりをねらった。基本の3種類のリズムを使い、小グループによるリズムアンサンブルづくりにとりくむ過程で、実際に演奏することを何度も繰り返した。各リズムの重なりや問いと答えなど、曲の構成と表現効果に着目して演奏を工夫する姿が見られた。

その際、パートを色別に表したり、サンバ・スパイスを表したりするマグネットを使ってバトゥカード進行表を作っていくことで、曲の構成の工夫が視覚的にも分かりやすいものとなった。



グループごとに自分たちの思いや意図に近づけるよう話し合いや演奏を重ねるうちに、強弱や速度に着目するグループがでてきた。そこで、グループの考えを共有するバトゥカード進行表ボードの空いたスペースに、音楽づくりの工夫や強弱、速度の変化についても記入させ、自分たちの工夫を分かりやすく示すようにした。その結果、音楽全体を視覚的に捉えることができ、音楽を形づくっている要素を意識しながらアンサンブルを行うことができた。

音楽づくりの工夫を行った後、互いのつくったリズムアンサンブルを聴き合う「サンバ・パーティー」を行った。「拍とリズムがあっていた」「ブレイクを入れる場所を工夫していた」「かべぬりをする事で徐々にパトゥカーダが盛り上がっていった」「コール&レスポンスが2回あった」など、曲の構成や、音楽を形づくっている要素に気づきながら他のグループの発表を聴くことができた。



第4次第9時【仮説2-②】

リズムアンサンブルづくりの後にもう一度「朝だ！カリリオ！」の鑑賞と、もう一曲の「ブラジル」の鑑賞を行った。自分たちが演奏したサンバのリズムをよく聴きとっていたり、拍とリズムの関係性や音色やリズムの重なり、問いと答えに注目したりと、より気づきの多い鑑賞を行うことができた。鑑賞する様子も、自分の担当したリズムを感じながら聴いていた、足で拍を刻みながら聴いていた、楽曲をより味わいながら楽しんで鑑賞する様子が見えた。



4 研究の成果と今後の課題

(1) 〈仮説1に関連した成果〉

- 児童にとって、特徴的なリズムや音楽を形づくっている要素を意識しやすいサンバを題材として取り入れたことで、単元を通して意欲を継続させながら楽しく音楽づくりや鑑賞にとりくむことができた。
- グループでリズムアンサンブルづくりをすることで、お互いのアイディアを出しながら音楽表現を工夫し、意欲的に音楽づくりをする児童の姿が見られた。グループごとに具体的な思いをもたせてサンバ・パトゥカーダをつくったことで、強弱や速度の面からも、音楽を形づくっている要素に着目することができた。

〈仮説2に関連した成果〉

- 鑑賞において、児童の気づきと音楽を形づくっている要素とを結びつけていくことで、児童が楽曲の面白さやよさについて根拠をもって考えることができた。
- 学習事後のアンケートにおいて、これまであまり鑑賞について意欲的でなかった児童も、鑑賞が好きになったという回答があった。音楽を形づくっている要素や音楽づくりとの関連により、鑑賞において、感受したことを言葉で表す方法が分かり、関心が高まったことも成果の1つであるとする。音楽づくりと鑑賞を相互に関連させた学習を行うことで、鑑賞から学んだことを活かして音楽づくりを行うことができ、音楽づくりを活かしてより鑑賞曲を味わうことができ、相乗効果として児童がより音楽活動の楽しさを味わうことができた。

(2) 〈仮説1に関連した課題〉

- 今回は、特徴的なリズムや音楽を形づくっている要素を意識しやすい打楽器編成のみのサンバ・パトゥカーダを題材としたが、今後は旋律や和声の響き、フレーズなどにも着目できるように題材の工夫を行っていききたい。
- サンバのリズムはシンプルではあるが、手拍子ではできても、楽器で演奏するとなるとコツをつかむまでに時間がかかり、多くの練習時間を費やしてしまった。限りある時間のなかでの有効な指導方法を年間計画とともに見直していく必要性を感じた。

〈仮説2に関連した課題〉

- 今回は音楽を形づくっている要素との関連について、担任が結びつけをする場面が多かった。今後は本学習を生かして、音楽を形づくっている要素との結びつきを自ら考え、感じたことを他の人と伝えあうために適切に表現することや、音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みについて触れながら鑑賞したり、音楽づくりをしたりすることにつながるよう継続して指導していききたい。

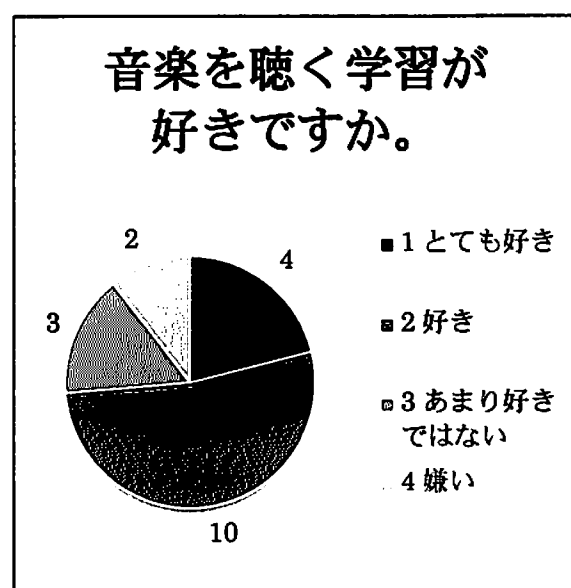
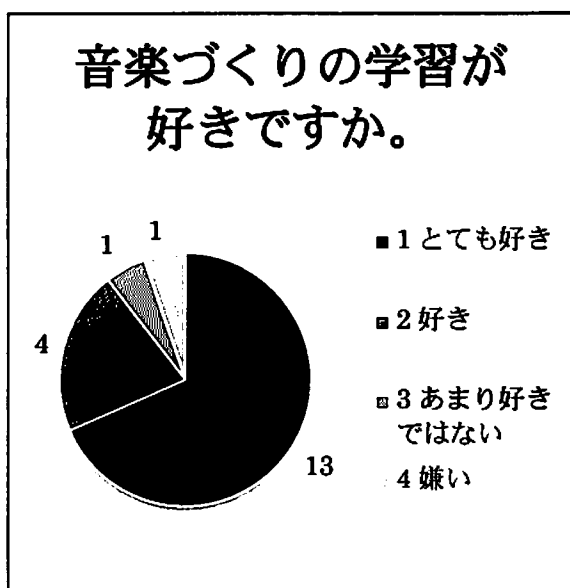
参考文献

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』平成20年8月
- ・ 文部科学省 国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 【小学校 音楽】』平成23年11月
- ・ 島崎篤子『音楽づくりでたのしもう！』日本書籍 1993
- ・ 渡辺亮 飯田茂樹『レッツ・プレイ・サンバ』音楽之友社 1998
- ・ 島崎篤子 加藤富美子『授業のための日本の音楽・世界の音楽 世界の音楽 編』音楽之友社 2013

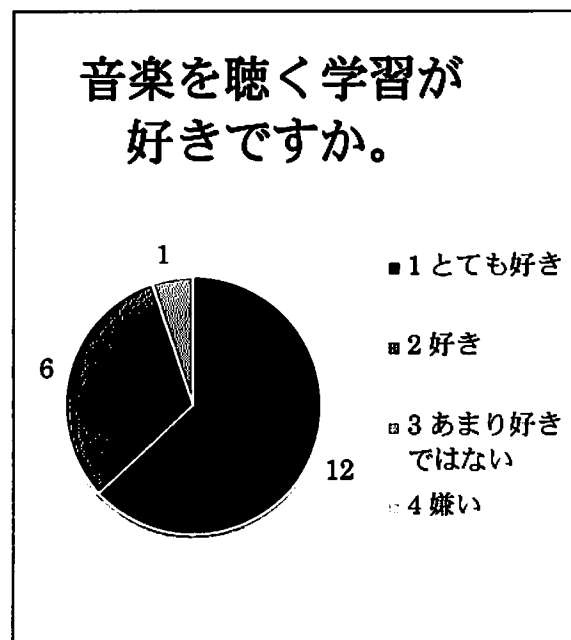
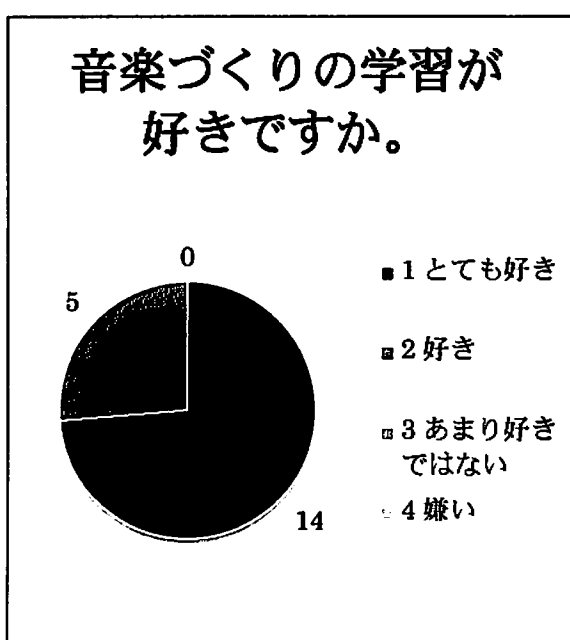
資料

資料① 実践事前と事後の児童の意識調査の比較

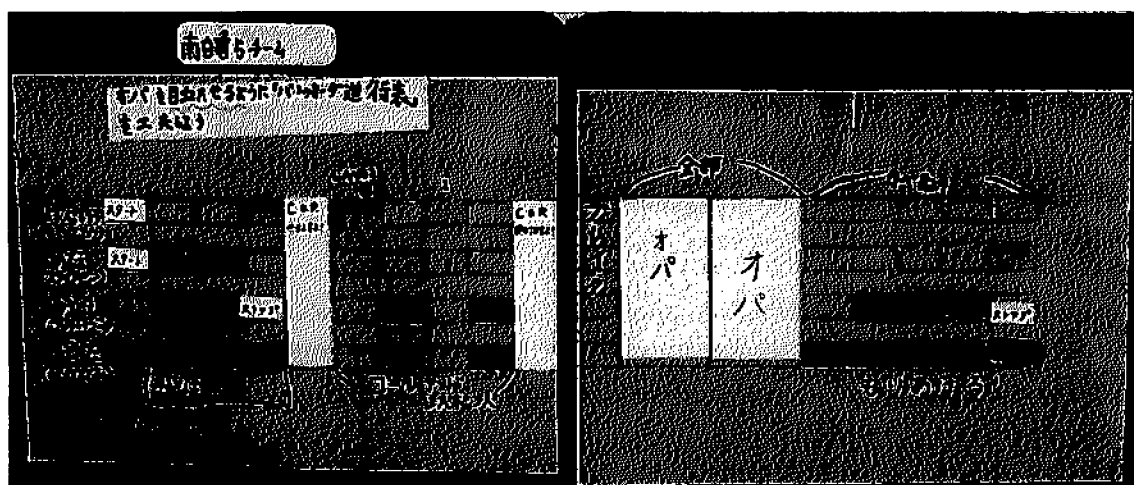
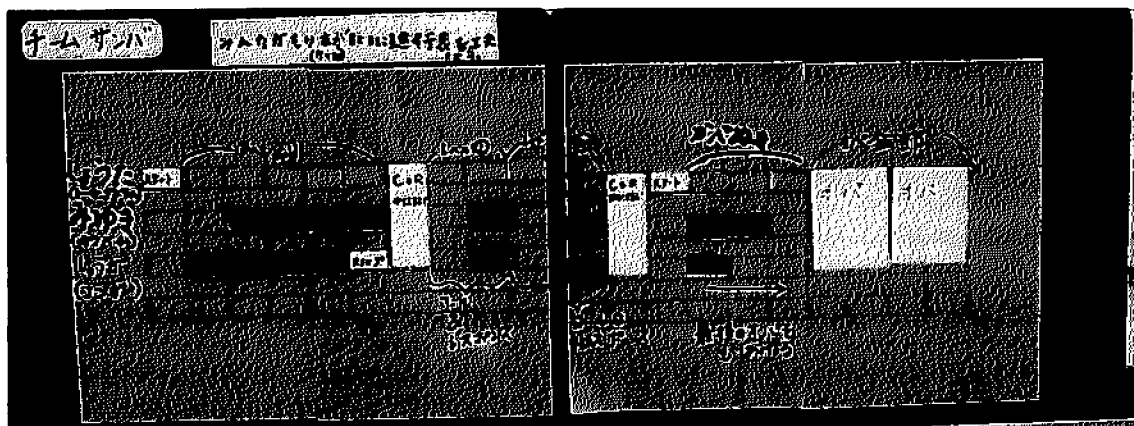
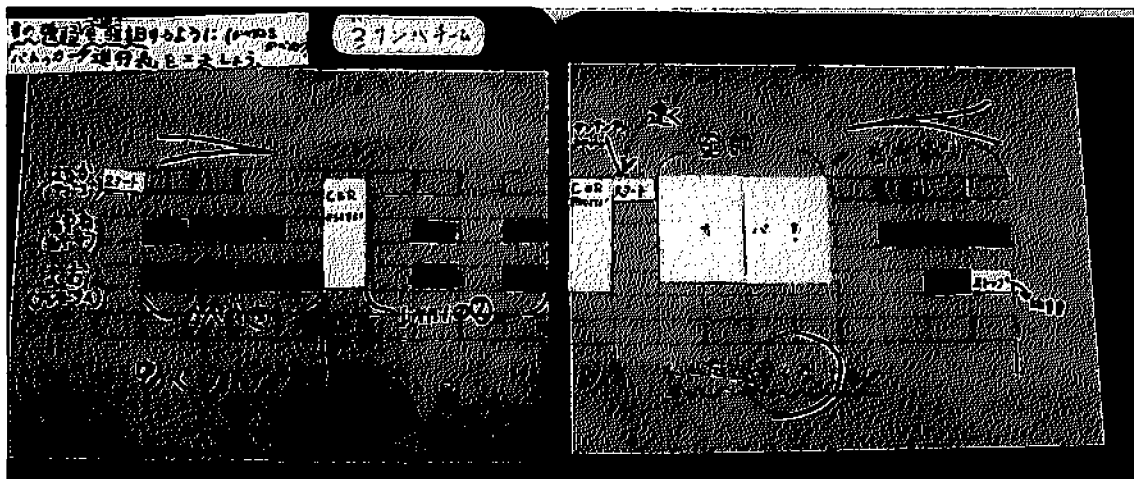
【事前調査】 5年1組 19名 2017年 5月調査



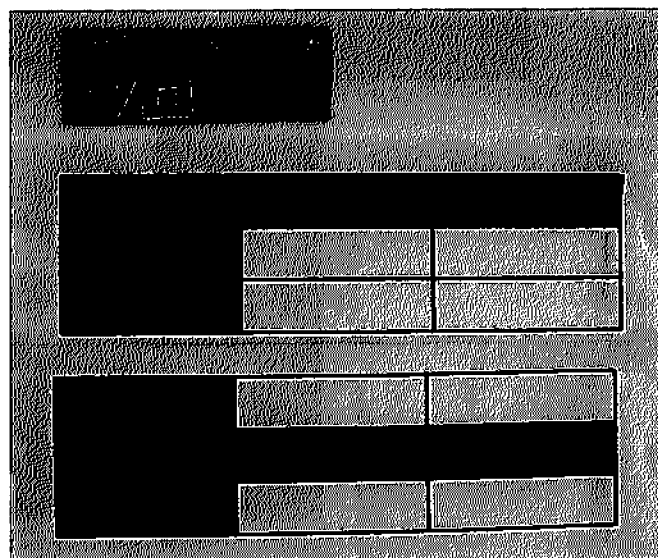
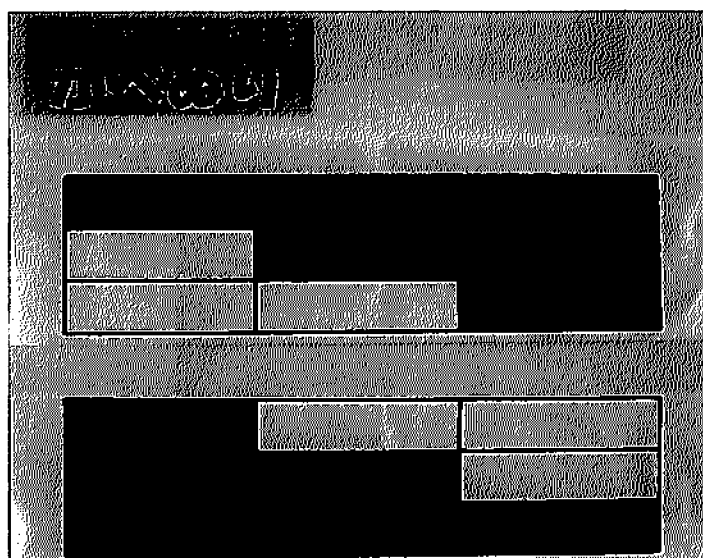
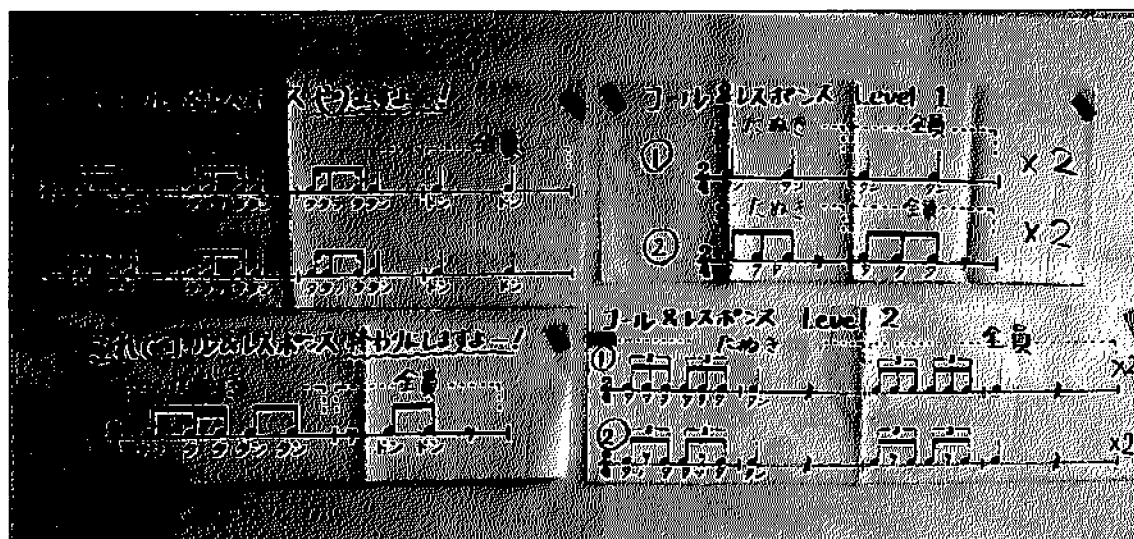
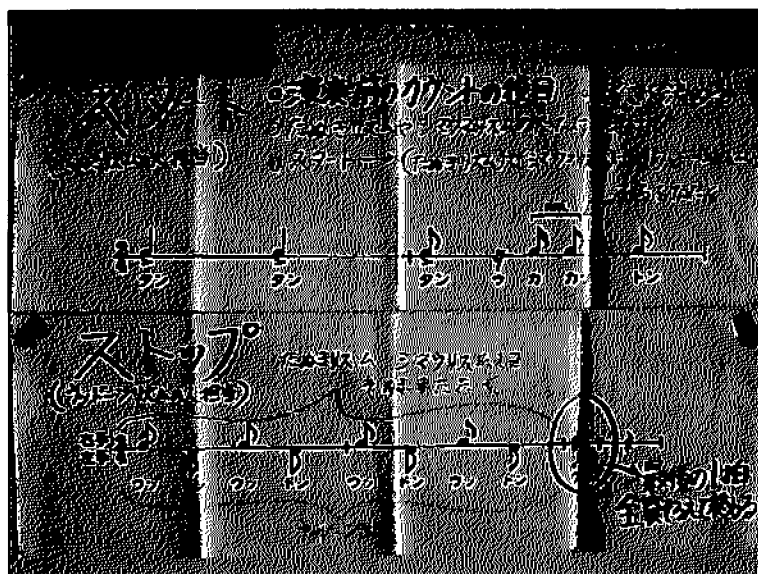
【事後調査】 7月調査

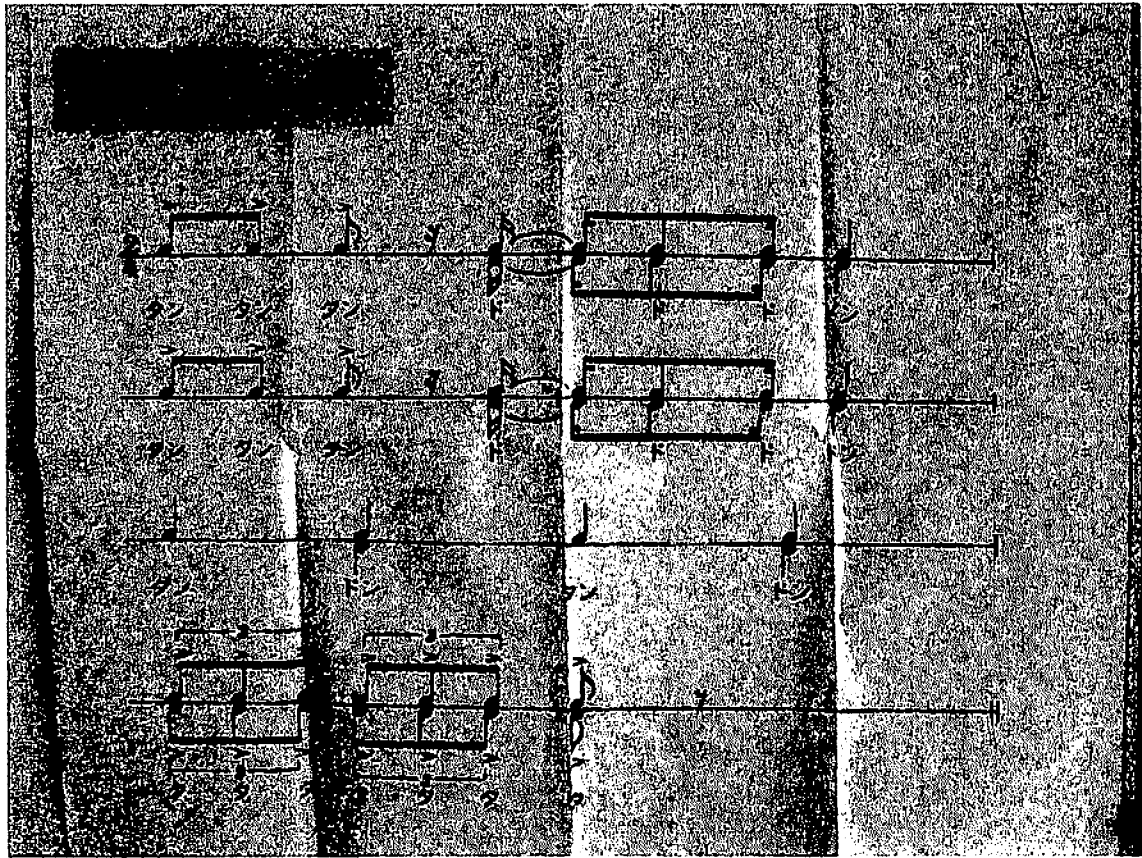


資料②音楽づくりの場面で児童が作成したバトウカード進行表

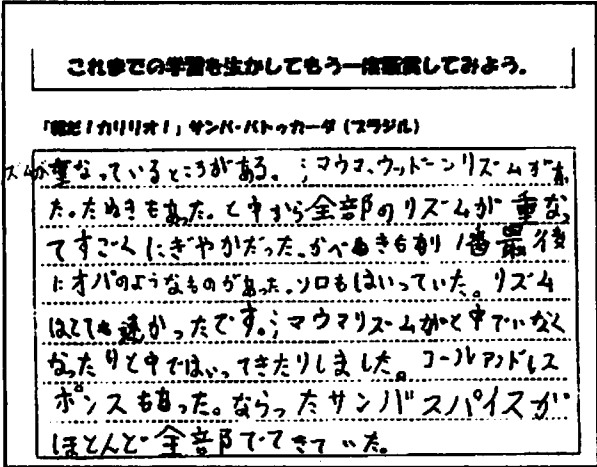


資料③ サンバスパイイス揭示物

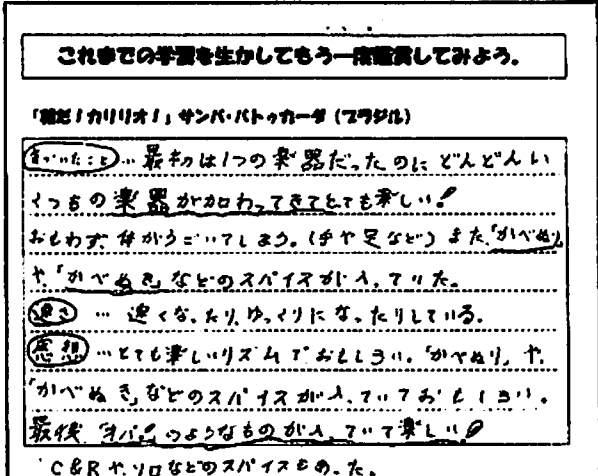




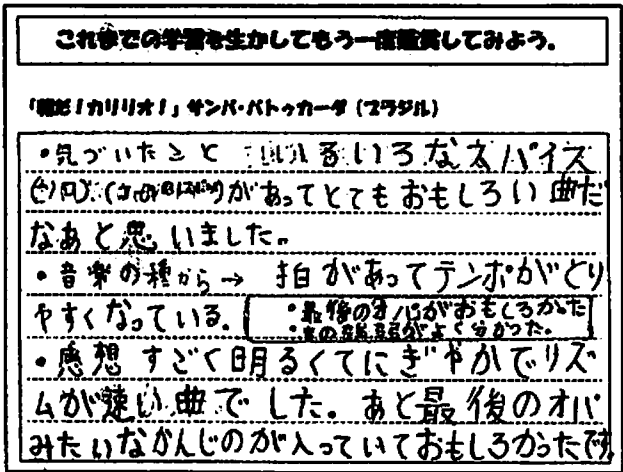
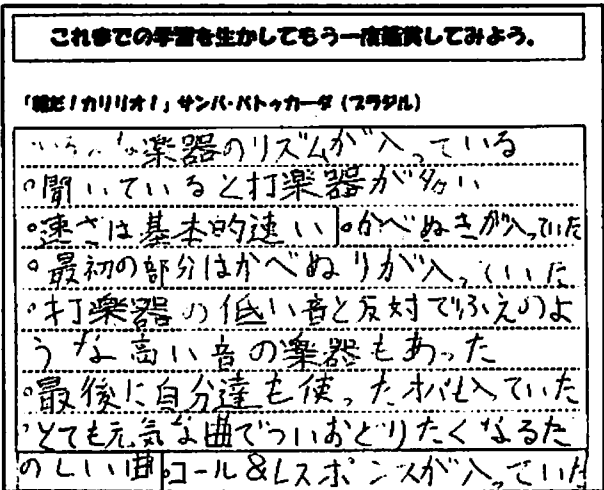
はすんでゐる
2つのリズムが重なってゐる
さうに人の声



- ・とてむりずかかしい。
- ・おどりがくなくてしもう
- ・堂々としている。・元気が出る。



リズムが速くてすごくにぎやかな曲

[illegible]

資料⑤ 「ブラジル」鑑賞のワークシート

ブラジルを鑑賞しよう。	ブラジルを鑑賞しよう。
ブラジル (パホーメ作曲) のびやかなメロディーでシマウマリズムがつかわれていた。サンバでならった。ゴルドントレスポンスや速度、くり返しなどがつかわれていて明るくてゆたかに感じた。こいごは低くてゆくりな感じてすごくよかった。	ブラジル (パホーメ作曲) 曲の感じは、とてもにぎやかで元気がでるような曲でした。くり返しや問いと答えが、あってすごくいい曲でした。一番最後のところはなめらかでゆい弱くなってから終わっていました。曲の途中で、なめらかなメロディーが入っていました。

ブラジルを鑑賞しよう。	ブラジルを鑑賞しよう。
ブラジル (パホーメ作曲) ・色々な楽器の音が聞こえた。 ・くり返しやゴルド&レスポンス、速度なども、色々な音楽の種が聞こえた。 ・みんなでサンバをえんそうしたときのリズムの「ためきリズム」や「マウマリズム」が聞こえた。 ・強弱があった。最初はウチウチした気持ちだった。 ・最後に速さがおそくなった。	ブラジル (パホーメ作曲) 強弱、旋律、リズム、速度、問いと答え、反復などいろいろ使っていたのになにげやかと楽しい曲だなと思った。私は強弱がとくにいいなと思った。なぜかということ、強いと、よりにぎやかで楽しい曲になるし、弱いと、やさしいけど楽しい曲になって、おもしろい。

「ブラジル」を鑑賞しよう。	ブラジルを鑑賞しよう。
ブラジル (パホーメ作曲) メロディーが入っていて、リズムカルで、すごく明るく、にぎやかな楽しい曲でした。反復(くり返し)や強弱で、心がおどるようになり、思わず手は足で、リズムをききこんでしまいました。問いと答え(レスポンス)は、なるとなくだけど、気づく音が、とてもいい。リズムもサンバにも、いろいろなスパイスの形があって、はば広い音楽で、自由に楽しめた。	ブラジル (パホーメ作曲) 同じメロディーが何度もくり返されている。最後の方は音がとてもおそくなっていた。とてもにぎやかな感じがする。たくさん楽器でメロディーをえんそうしていたり、一つの楽器でメロディーをえんそうしていたりしている。曲の中で強弱があった。低い楽器や高い楽器もある。最後はリズムがゆっくりになった。

資料⑥アフリカン・パーカッションの鑑賞・体験

— 文化芸術による子どもの育成事業より —



資料⑥アフリカン・パーカッションの鑑賞・体験後 トーキングドラム「オバタラの鑑賞ワークシート」

「オバタラ」トーキングドラム (アフリカ・ガーナなど)

気づいたこと 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 感想 〇アフリカのサババト、カマともういす
 ごく神々しいの、だった。

「オバタラ」トーキングドラム (アフリカ・ガーナなど)

気づいたこと 〇リズムが入っているからとて
 おもしろかった。自由なリズムだった。
 〇音楽のはじめは、速くはなり、急に弱くなっている。
 〇感想 トーキングドラムは、おもしろい。
 〇意味だから、本当にそれにあった。
 〇全部音が、でている、楽しかった。

「オバタラ」トーキングドラム (アフリカ・ガーナなど)

気づいたこと 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 〇速くはなり、急に弱くなっている。
 感想 〇アフリカのサババト、カマともういす
 ごく神々しいの、だった。

「オバタラ」トーキングドラム (アフリカ・ガーナなど)

気づいたこと 〇リズムが入っているからとて
 おもしろかった。自由なリズムだった。
 〇音楽のはじめは、速くはなり、急に弱くなっている。
 〇感想 トーキングドラムは、おもしろい。
 〇意味だから、本当にそれにあった。
 〇全部音が、でている、楽しかった。